



# しずおかの環境

～平成 30 年版環境白書～



静岡県

さあ、静岡県の環境への  
取組を見てみよう！



(さとし先生)

よーし、勉強するぞ！

早く見たいです♪



(とおる君) (たかこさん)

〈表紙〉

左上：田貫湖（富士宮市）

右上：ヤシオツツジ（川根本町）

左下：サンコウチョウ（浜松市）

右下：蓮華寺池公園（藤枝市）

この環境白書は静岡県環境基本条例第8条に基づき、環境の保全及び創造に関する施策の実施状況等を明らかにするため、毎年発行しており、主に平成29年度の取組等をまとめたものです。

# 平成 30 年版環境白書 目次

## トピックス

低炭素社会に向けた取組	1
循環型社会に向けた取組	4
自然共生社会に向けた取組	6
新たな計画等の策定	9

## 第 1 章 静岡県環境の現状と施策の実施状況

I ライフスタイル、ビジネススタイルの変革	10
II 低炭素社会に向けた取組	12
III 循環型社会に向けた取組	14
IV 自然共生社会に向けた取組	16
良好な生活環境の確保	18

## 第 2 章 静岡県環境基本計画の進捗状況

1 静岡県環境基本計画の進捗状況の評価	20
2 環境指標の数値の推移	23

## 特別編 漫画で知ろう！しずおかの環境

静岡県公害克服の歴史	26
シカが森林を食べつくす！？	27



SDGs (Sustainable Development Goals) とは

「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す、国際社会全体の開発目標です。環境・経済・社会をめぐる課題について、17 のゴールと 169 のターゲットが示されています。

## 低炭素社会に向けた取組

SDGsのどのゴールに寄与するか確認しましょう。



### 環境配慮が優れた建築物を表彰しました！

県では、環境性能に優れ、環境への負荷低減に配慮した建築物を評価し、特に優れた建築物の建築主及び設計者を表彰しています。

今後も表彰制度を通じて、環境性能の優れた建築物の整備を促進していきます。

いろんなゴールに結びついているんですね。



優秀賞	サンショウ株式会社新社屋 建築主：サンショウ(株) 設計者：大和ハウス工業(株)浜松支店一級建築士事務所	静岡理工科大学建築学科棟えんつりー 建築主：学校法人静岡理工科大学 設計者：NASCA
-----	--	---



奨励賞	浜松ホトニクス株式会社 新貝工場1棟 建築主：浜松ホトニクス(株) 設計者：(株)山下設計中部支社	シャリエ長泉グランマックス(EAST棟) 建築主：東レ建設(株) 設計者：東レ建設(株)東京一級建築士事務所
-----	---	--



### 先進的な省エネ建築物「ZEB」普及のためのセミナーと見学会を開催

県は、「セミナー」や「実例見学会」により、ZEB（ゼブ）の普及に取り組んでいます。

ZEBとは、快適な室内環境を保ちながら高断熱化や高効率な設備で省エネに努めるとともに、太陽光発電等によりエネルギーを創ることで、建物内で消費するエネルギー使用量の収支をほぼゼロとする建築物のことです。



見学会の様子：サンショウ株式会社新社屋



## 県内の個人・企業が地球温暖化防止 環境大臣表彰を受賞

環境省は、毎年、地球温暖化防止月間である12月に、顕著な功績のあった個人又は団体に対しその功績をたたえるため「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を行っています。

平成29年度は、県内から、山脇一さん（対策活動実践・普及部門）と株式会社リコー環境事業開発センター（対策技術先進導入部門）の2者が受賞しました。

静岡県内の受賞者は10年連続で、累計24件の受賞となりました。



## 富士の冷たい地下水で、地球に優しく 空調を快適に！

静岡県富士山世界遺産センターは、平成25年6月に世界文化遺産に登録された富士山を後世に守り伝えていくための拠点施設として、平成29年12月23日に開館しました。

センターが立地する富士宮市宮町は、一年を通じて比較的低温な水温で安定した地下水が豊富に埋蔵されていることが特徴で、この地下水を空調熱源として活用することによって、温室効果ガスの排出量を削減しています。



## 「ふじのくにバーチャルパワープラント」 構築への取組

県は、民間事業者と共同して、IoT技術を活用して地域内の電力需給を調整するシステム「ふじのくにバーチャルパワープラント」の構築に取り組んでいます。

平成29年度は、有識者、市町、事業者等で構成される協議会を立ち上げ、モデル事業等の検討を行うとともに、企業の関連ビジネスへの参入を促進するため、セミナーを開催しました。



CO<sub>2</sub>ゼロエミッションへの夢チャレンジ（山脇さん）

### 地域連携による木質バイオマスエネルギーの 地産地消モデル構築

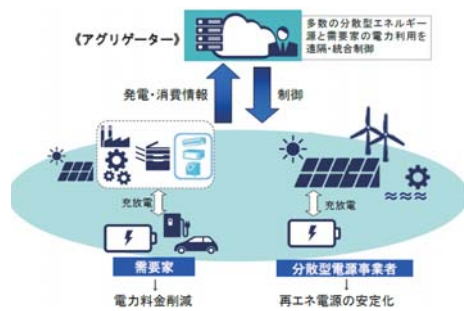
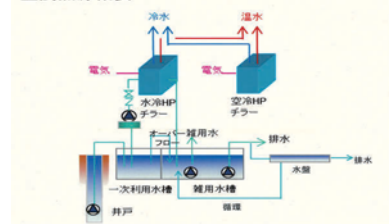


御殿場地区の森林保全と地域創生  
リコー環境事業開発センターの低炭素化 → 実現

木質バイオマス熱利用の御殿場モデル（リコー株式会社）



静岡県富士山世界遺産センター  
空調熱源概要



IoT技術を活用し、新エネルギー等を安定電源として、  
省エネルギーにも貢献する新たな電力需給システム

ふじのくにバーチャルパワープラント



## 新興津国際海上コンテナターミナルで LED照明塔を建設

清水港新興津地区のコンテナターミナルにおいては、平成28～29年度に、場内の照明用として、LED照明塔を2基建設しました。LED照明は、従来の高圧ナトリウムランプなどのHIDランプに比べ、省エネルギー、CO<sub>2</sub>削減等の環境負荷低減のほか、長寿命であるためライフサイクルコストにも優れています。

また、コンテナを移動させるための荷役機械については、電動型トランステナ（コンテナ用ヤードクレーン）を導入。従来のディーゼル発電機型に比べ、CO<sub>2</sub>排出量の削減に寄与しています。

このように、清水港では、温暖化対策等に寄与する環境にやさしい港を目指して取り組んでいます。



LED照明塔（津波避難所付き）



MITSUBISHI E&S ホールディングスHPより  
電動型トランステナ（コンテナ用ヤードクレーン）



## 新たなRORO船定期航路が開設されました！

RORO（ロールオン・ロールオフ）船は、温室効果ガスの排出抑制等に寄与するモーダルシフトの担い手として注目されています。

清水－大分間のRORO船定期航路が、平成30年3月、週3便から週6便に増便されるとともに、北海道へのデイリー航路に接続する常陸那珂に向けた航路が新設されました。

加えて、5月には苫小牧と仙台、東京、清水、大阪を結ぶループ航路が新設されました。

県内では、東京－御前崎－九州航路と合わせて4つの航路が運航されることとなり、北海道から関東、清水、九州を結ぶネットワークに大阪、東北への航路が加わり、結節点である清水港の利便性は飛躍的に向上しました。

県は、国土交通省や民間船会社等と連携し、引き続き利用促進に努めていきます。



苫小牧－清水－大阪航路の就航船  
「神明丸（栗林商船（株）」



船内の様子

## 循環型社会に向けた取組



### 県民みんなで食品ロス削減！

食品ロスは、国内で年間 646 万トン発生（平成 27 年度推計）しており、このうち約 55%が事業所から、約 45%が家庭からとなっています。

県では、県民に食品ロス削減のための実践を求める「ふじのくに食べきりやったね！キャンペーン」及び「ふじのくに食べきりやったね！チャレンジ」等を実施しました。

オープニングイベントでは、家庭で余った食材を使って、シェフが料理をする「サルベージ・パーティ」を開催し、家庭で食材を上手に使いきるアイデアを紹介しました。



知事のキャンペーン開催宣言

### ふじのくに食べきりやったね！ キャンペーン

県内の飲食店に協力いただき、食べきった写真を県へ投稿するとプレゼントが当たるフォトコンテストの実施や、食べきると特典が付与される等のサービスを通じて「食べきり」に対する県民の意識向上を図りました。



フード・サルベージの様子

### ふじのくに食べきりやったね！ チャレンジ

県内小学生全員に食品ロス削減について分かりやすく解説した啓発教材を配布し、家庭での食品ロス削減の実践を促しました。また、優良な食品ロス削減のアイデア 9 件を表彰しました。



食べきりチャレンジ表彰式

このほか、スーパーマーケットの協力を得て、家族等で訪れた来店者に、食品ロスの現状や家庭で簡単にできる食品ロス削減のアイデアをパネルで紹介したり、クイズラリーに参加いただくなど、食品ロスについて楽しく学ぶ啓発イベントを開催しました。



スーパーマーケットでのイベントの様子



## 大学生の意見交換会を開催しました

若者世代の環境保全意識の高揚につなげようと、平成 29 年 11 月、県内所在の 4 大学（静岡大学、静岡県立大学、東海大学、常葉大学）環境サークルによる意見交換会「インカレ eco カフェ」を開催しました。

参加学生からは「各サークルの活動がそれぞれ異なっており、いずれも興味がある。互いに参加し合いたい。」「皆で連携して活動し、他の若者を呼び込んでいくことで地域活性化に貢献したい。」などの意見を寄せていただきました。

平成 30 年 2 月には各大学が合同で海岸清掃活動を実施するなど、具体的な連携が生まれています。



オープニングの様様



意見交換の様子



## 静岡県地下水の採取に関する条例を改正しました

地下水の保全と適正かつ持続的な利用を図るため、平成 30 年 3 月に「静岡県地下水の採取に関する条例」を改正しました。内容は、以下 3 点です。

- ・ 目的に、地下水の適正かつ持続的な利用を追加しました。
- ・ 基本理念として、「健全な水循環」の維持などを定めました。
- ・ 地下水の採取量の把握と地下水利用状況等の情報提供を、県の責務として位置付けました。



柿田川の湧水



## 廃棄物不法投棄の情報提供に関する協定を締結しました

県は、県内で活動する団体と「廃棄物不法投棄の情報提供に関する協定」を締結し、不法投棄を発見した際の情報提供や、不法投棄撲滅のための啓発活動等への協力をお願いしています。

平成 29 年度は公益社団法人静岡県産業廃棄物協会等 3 団体と協定を締結。「監視の目」が増えることにより、さらに未然防止・早期発見につながることを期待されます。



協定締結式の様子



自然共生社会に向けた取組



**港湾の浚渫土を活用した  
「ふじのくに田子の浦みなと公園」完成！**

田子の浦港では、水深確保のため毎年浚渫を行っており、浚渫土砂処理に苦慮していました。そこで、土質改良した浚渫土砂で埋立造成し、整備を進めたのが“ふじのくに田子の浦みなと公園”です。

地域住民との協働により、歴史的教育施設“ディアナ号”や“富士山ドラゴンタワー”等、魅力的な施設を整備し、教育や交流の場として多くの人々に利用いただいています。

写真上：ふじのくに田子の浦みなと公園全景  
写真下：歴史的教育施設“ディアナ号”



**県産森林認証材の利用が広がっています**

県内の様々な建築物で、県産森林認証材の利用が広がっています。

「富士山世界遺産センター」の逆さ富士をイメージした木格子（もくごうし）や、「ふじのくに茶の都ミュージアム」の吹寄せ壁では、県産の認証材が使われています。

また、「静岡トヨペット」掛川店は、自動車販売店では全国で初めて、認証材が使われていることを証明する「プロジェクト認証」を取得しています。

写真上：ふじのくに茶の都ミュージアムの吹寄せ壁  
写真下：プロジェクト認証を取得した静岡トヨペット掛川店



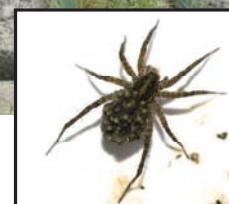
**土着天敵を活用したネギ類の  
安定生産技術の開発で農薬使用を半減**

県内では、シロネギ栽培において、殺虫剤抵抗性を発達させた害虫ネギアザミウマが問題となっています。この害虫の天敵と考えられるクモ類（コモリグモ）を増やすため、クモ類のすみかであるムギ類を間作することと、クモ類にやさしい農薬使用を組み合わせ、新たな防除技術を開発しました。

これにより、人の健康や環境に影響を及ぼすと考えられている化学合成殺虫剤の使用を半減できるようになりました。



オオムギを間作したネギ圃場



子グモを背負ったコモリグモ（ネギアザミウマの天敵）



## 神奈川県と合同で自動車排出ガス対策推進 キャンペーンを実施

自動車排出ガスは、大気汚染や地球温暖化の原因となることから、良好な生活環境の保全のため、排出量を削減することが必要です。

県は、平成 25 年度から毎年、神奈川県と合同で、東名高速道路サービスエリアにおいて、アイドリング・ストップ実践の呼び掛けやエコドライブのパネルを展示する自動車排出ガス対策推進キャンペーンを実施しています。

写真上：キャンペーンの様子

写真下：キャンペーンで配布したステッカー



## 美しい伊豆半島を目指し屋外広告物対策を推進

伊豆半島の屋外広告物について、美しい自然景観への影響が大きい幹線道路沿いの「野立て看板」の実態調査を行った結果、約 2,200 件の違反看板があることが判明しました。

伊豆半島は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック自転車競技会場となります。世界中からの来訪者を美しい景観でおもてなしするため、県と市は、この違反看板を 2020 年までにすべて是正するスケジュールを策定し、指導に取り組んでいます。

写真：違反看板の撤去事例



## 「静岡水わさびの伝統栽培」が 世界農業遺産に認定されました

静岡地域及び伊豆地域にて継承されてきた、伝統的な静岡の水わさび栽培が、平成 30 年 3 月、世界農業遺産に認定されました。

世界農業遺産とは、世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域を国連食糧農業機関（FAO）が認定するものです。

わさび栽培発祥の地である本県では、山間地の沢に階段状のわさび田を作り、豊富な湧水を利用し、肥料を極力使わずに湧水に含まれる養分でわさびを栽培する伝統的な農業が継承されています。



わさび根茎



山間地の沢に階段状に広がるわさび田



## 企業連携でドローン映像による 美しい邑プロモーションビデオ作成

「しずおか農山村サポーター『むらサポ』」では、農山村地域の持つ多彩な地域資源を活用して CSR（企業の社会貢献）や CSV（企業による課題解決）などに取り組む企業会員の登録を進めています。

平成 29 年度は、ドローンを使って、持続的な農業経営や農地等の保全活動により、美しく守られている棚田等の農村風景を撮影、活動に取り組む人々も合わせて取材し、10 の農山村地域のプロモーションビデオを制作しました。

ドローンによるダイナミックで美しい映像を通じて、美しい農山村景観の価値、多様な主体（企業や大学）との協働による農山村の環境保全の状況を伝えています。



ドローンで空撮した棚田植え作業の風景（松崎町石部地区）



農地一面に広がるレタス栽培の風景（森町南部地区）



## 環境保全型農業への取組活動

県立田方農業高等学校は、「まじめで意欲ある農場」が正しく評価されることを目標に認証取得に挑戦しています。

その 1 つが、農林水産省が認めている“有機野菜”です。JAS 法に基づき「有機 JAS 規格」の検査認証を受けた農産物だけが、「有機野菜」「有機農産物」等と表示できます。同校は、平成 24 年に「有機 J A S」認証を取得して、J A 三島函南農産物直売所や文化祭にて生産物を販売し、好評を得ています。また、環境保全活動として、小学生に田植え、稲刈り指導を行うなど地域啓発活動にも取り組んでいます。



生産物の販売



稲刈り指導

## 新たな計画等の策定



### 「ふじのくに生物多様性地域戦略」を策定しました

本県の多彩で豊かな自然を後世に継承していくための行動計画となる「ふじのくに生物多様性地域戦略」を策定し、平成30年3月に公表しました。

本戦略は、2018～2027年度までの10年間の計画期間とし、行政だけではなく、県民や事業者、民間団体を含む多様な主体の自発的な取組を展開していくためのガイドラインとなるものです。

今後は、戦略の普及・啓発を図るとともに、戦略に掲げる取組を総合的に推進してまいります。



### 特定外来生物対応リーフレットを作成しました

県では、ヒアリ類を含む特定外来生物に関する知識の普及を目的として、県内で発見された特定外来生物への対応についてまとめたリーフレットを作成しました。

今まで馴染みのなかった特定外来生物の脅威や、生態系等に与える影響を、写真やイラストで分かりやすく紹介したほか、発見した生物に応じて具体的な行動をとれるよう解説しています。特定外来生物の駆除等を通して、静岡県生態系保全に御理解、御協力をお願いします。



### 「静岡県緑化推進計画」を策定しました

本県が「花と緑が織り成す美しい庭園県」となることを目指し、平成30年3月に2027年度までの10年間の計画期間とする「静岡県緑化推進計画」を策定しました。

計画では「美しい庭園県」の実現に向け、地域緑化の「人づくりと場づくり」を進めることとしています。

「人づくり」では、仲間をまとめ、強い思いを持って緑化活動を進められる「地域緑化の核となる人材」を育てるため、研修プログラムを充実します。

「場づくり」では、多くの人が行き交う駅や観光地周辺への「花と緑のおもてなし空間」の創出や、住民参加の緑化の場を活用し、地域主体の緑化活動を推進します。

